

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第34週（8月17日～8月23日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 手洗い、感染者との密な接触を避けることが重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、増加」

第34週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は697例であり、前週比76.9%増（18.9%増）であった。昨年同時期と比べて63.8%減（2019年 第34週 1,928例）と少ない状況である。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ1.87、0.47、0.39、0.29、0.23であった。

感染性胃腸炎は前週比121.0%増（20.7%増）の367例で、中河内3.10、泉州2.70、南河内2.63、大阪市南部1.94、三島1.82である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比45.2%増（10%増）の77例で、中河内0.95、北河内0.65、泉州0.45、南河内0.44であった。

咽頭結膜熱は前週比29.5%増（111.1%増）の57例で、中河内0.80、三島0.53、北河内0.35であった。

ヘルパンギーナは前週比55.2%増（2.3%増）の45例で、泉州1.10、大阪市北部0.29、大阪市南部0.22である。

突発性発しんは昨年同時期と比べて4%減の92例（2019年 第34週 96例）と報告数は変わらない（表1の下を参照）。

※ 第33週の各科定点疾患の報告数には連休による診療日数減の影響がみられたため、（カッコ内）に第32週比の値を併記した。

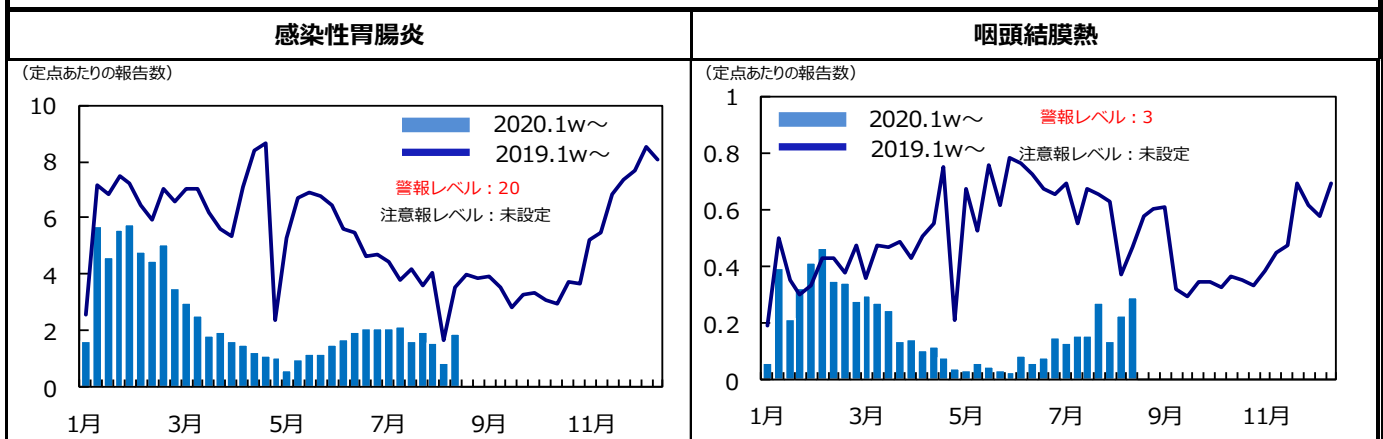


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第34週8月17日～8月23日）

第34週の順位	第33週の順位	感染症	2020年 第34週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第34週の 定点あたり 報告数	2020年第34週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	1.87	121%増	3.54	20歳以上_17%
2	2	突発性発しん	0.47	42%増	0.49	1歳_54%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	45%増	1.03	5歳_19%
4	4	咽頭結膜熱	0.29	30%増	0.47	1歳_61%
5	5	ヘルパンギーナ	0.23	55%増	0.76	1歳_31%

（突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。）

第34週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2019年の報告数は、大阪府が全国で第一位である

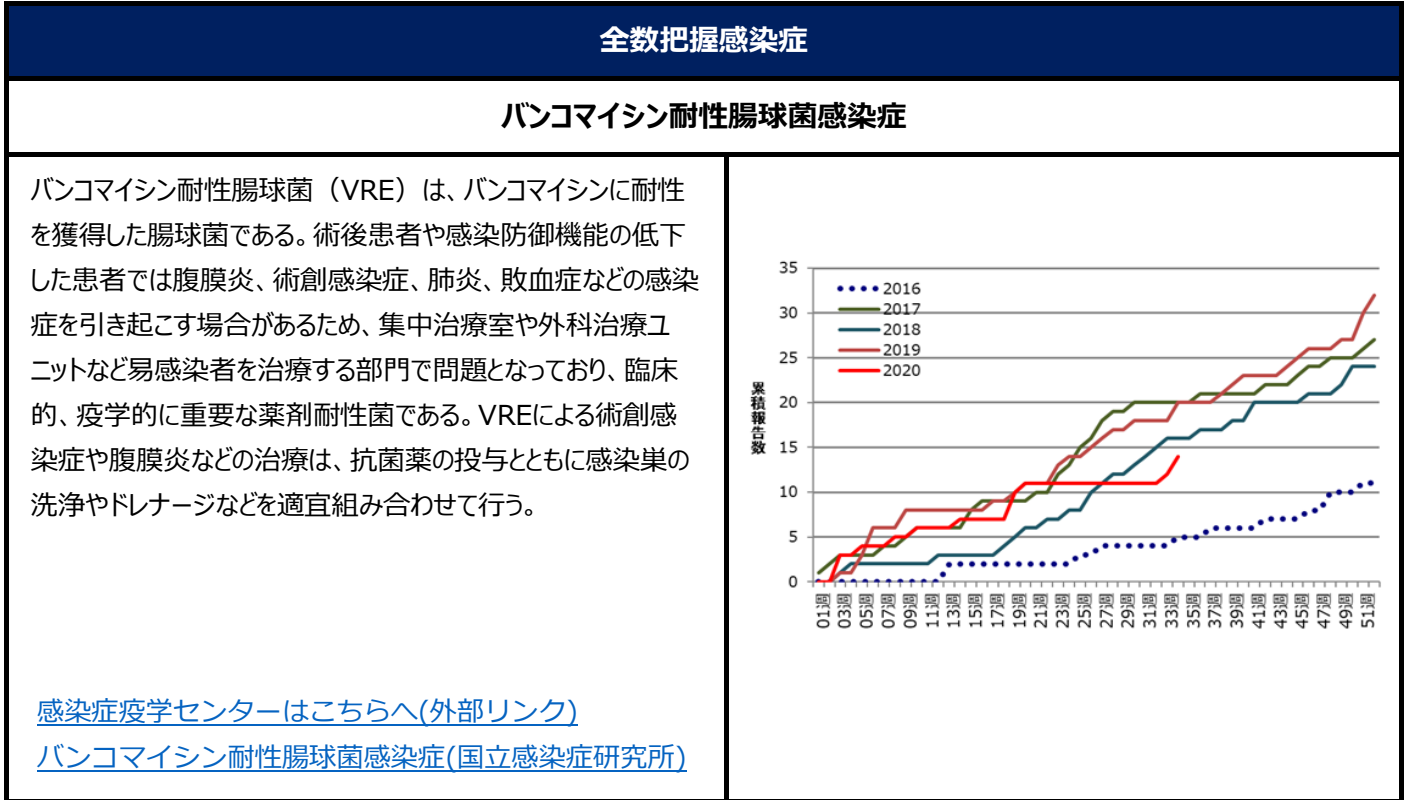


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第34週8月17日～8月23日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	6			2			1	2	1	88
4類感染症	レジオネラ症（肺炎型）	1								1	71
5類感染症	アメーバ赤痢	2						1		1	36
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2			1					1	86
	後天性免疫不全症候群	1								1	62
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1					1				22
	梅毒	5					1			4	596
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2		1	1						14
	風しん	1								1	6
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	996									7,841
結核 (2020年6月分)	結核 新登録患者数：67名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 29名) (府内累積報告数 640名、内 肺・喀痰塗抹陽性 239名)										

(2020年8月25日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の集計は、8月17日から8月23日の大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の情報をご覧ください。](#)